

天遊 TenYou

大阪教育大学広報誌

OSAKA KYOIKU UNIVERSITY
PUBLIC INFORMATION MAGAZINE

Summer 2021 Vol.54

授業探訪

STUDENTS NOW!

ラボ訪問

BAGの中身

附属学校園ウォッチ

ゼミ室こぼれ話

TOPICS



特集
1

みんな「STAY HOME」何してる?

特集
2

実際どうなの?オンライン授業のあれこれ



 **YouTube OKU Channel**

インタビューやイベントの様子など動画を随時更新中!
チャンネル登録してね!



国立大学法人
大阪教育大学

#ひとりカフェごっこ

小中教育専攻美術・書道教育コース(2回生)
渋谷 百花さん

私は普段カフェで読書や勉強をするのが好きなのですが、自粛中はなかなか行けず…そこで、お家をカフェ風してみました!お天気のいい日に、窓際でスイーツを食べながらする読書は最高の幸せです♪



桜のミニ盆栽で
プチ森林浴



小中教育専攻学校教育コース(4回生)
小島 尚喜さん

家にいる時間が多くなり、自宅で自然を感じたいと思い、桜の盆栽を育て始めました。水やりなど気を配ることも多いですが、成長するほど愛着が湧いてきます。来年の春には可憐な花を咲かせてほしいです。

1000ピースパズルにハマリ中!

幼児教育専攻(4回生)
米川 愛さん

いっぱい頭を使って、達成感を感じられる1000ピースパズルにハマリ中!毎晩のようにして、もう10回以上組み立てています。集中しすぎて夜ふかししてしまうことも…是非挑戦してみてください♡



ITパスポート
取得に向けて
勉強中

理数情報専攻
数理情報コース(3回生)
齊藤 梨緒さん

何か形に残るものが欲しい!と思い、「ITパスポート試験」の勉強を始めました。情報を専攻していますが、まだまだ知らないことばかりで大変ですが、資格取得のために頑張ります!



ハンドメイド
作家に挑戦

養護教諭養成課程(3回生)
石黒 まいさん



家で過ごす時間がたくさんあったこと、小さい頃から物作りが大好きだったことから、ハンドメイド作家に挑戦しました。作品が出来上がった瞬間、お客様に作品を喜んでいただけた瞬間がとても嬉しくてやりがいを感じています。



猫も一緒に
勉強!



特別支援教育
特別専攻科(1回生)
辻 佑香さん

家にいる時間が増えたため、猫2匹と一緒にいる時間も格段に増えて更に仲良くなりました。ただ、勉強中でも「かまって〜」と机の上でゴロゴロしたり膝に乗ったり…(笑) 気になって集中できないこともあります。猫と一緒に家での勉強頑張ります!

みんな STAY HOME 何してる?

コロナ禍で「STAY HOME」時間が
長くなった今、大教生は自宅で
どんなことをしているのでしょうか。

お家時間で
今までできなかった
刺繍を



養護教諭養成課程(3回生)
今井 渚彩さん

高校生の頃に始めて、忙しかったのでしばらくしてなかったのですが、家にいる時間が多くなったのをきっかけに、もう一度刺繍をやり始めました。気分転換にもなって、徐々に図案が完成していくのが楽しいです。

STAY HOME
だからこそ文通



小中教育専攻
数学教育コース(2回生)
高林 優稀さん

STAY HOME だからこそ、今までスマホを通して話していた友人や知人に手紙を書いています。手紙が返ってきたら、そこから文通が始まるので楽しく、手書きで形に残るのも嬉しいので、これからも続けたいです。

コロナ禍での
部活動を支える
Webアプリを開発



コロナ禍で部活動を行う上で必須となった「健康観察記録簿」。プログラミングを勉強し、その提出を確認・管理するWebアプリを開発しました。日々の生活をちょっと便利にするツールを、今後も作ってみたいです。

理数情報専攻
数理情報コース(2回生)
深田 清文さん



100日
紙あそび

芸術表現専攻
美術表現コース(4回生)
高羽 美帆さん

STAY HOMEの続く中、ゼミで出された課題は「とにかく100日間、毎日作品を作り続ける」こと。私は大好きな「紙」をテーマに。結果、自分にとっての「作る」の原点は「楽しい」にあると見つめ直すきっかけになりました。



今回は
紹介できませんでしたが、
他にもこんな
「STAY HOME」が
ありました。

- 人生で6つ目の楽器、ヴァイオリンを始めました
- アニメ鑑賞、映画鑑賞、スポーツ観戦
- 先生と友だちとの手話のオンライン勉強会
- 書道の練習
- 家庭菜園
- 断捨離
- 食事改善
- お菓子作り
- オンラインゲーム

専攻とは
少し違う資格
にも果敢に
挑戦



理数情報専攻数理情報コース(2回生)
高橋 龍人さん

自分の専攻に関する知識を深めるため「基本情報技術者」の勉強と、自分の専攻とは違う経理・会計について学ぶため「日商簿記3級」を合格した後、「日商簿記2級」の勉強をしていました。

実際にどうなの？ オンライン授業のあれこれ

新型コロナウイルス感染拡大防止策として、本学では2020年4月からオンラインによる授業を実施してきました。導入から1年が経ち、教員が実施している、学生が受講しているオンライン授業について、実際どのような工夫や苦労があるのか、2人の教員と3人の学生に聞いてみました。

教員に聞いてみました

教育協働学科理数情報部門 町頭 義朗 教授

Q1 気を付けていることは？

大学の授業を受けている、っていう雰囲気味わえるようにしています。プリントや資料を見て、出された課題について考えるだけでなく、教員の声を聴くことができ、画面の中で説明してもらっているという環境を提供できるよう取り組んでいます。

Q2 苦労していることは？

課題のフィードバックが一番大変ですね。前期だけでも200人超の受講生がいるので、その課題への回答と授業に関する質疑、近況報告等、その全てに返事を書くのは骨が折れますね。帰宅後や土日に返事を書くことが多いです、1日の中でPCに向かう時間が圧倒的に増えました。でも、どれだけ大変でも学生と繋がっておきたいので、欠かさないことの一つです。



Q3 オンライン授業の利点は？

学生からしたら、考える時間が十分に取れるということですかね。ある学生は「家族会議を開いて一緒に考えました」ということもありましたね。他には、わからなかったところも、早戻しをして聴くことができるのも利点だと思います。

Q4 学生に意識してほしいことは？

学習状況や様子は「文字」でしかわからないので、課題への回答や感想等は「わかりやすく」「伝わりやすく」書くことを意識してほしいですね。論理的に、過不足なく書いてほしい。あとは、昼夜逆転することなく、正しい生活習慣で過ごしてほしいですね。そのために、私たち教員は授業時間までに、動画をアップロードすることは必須だと思います。

教員養成課程理科教育部門 向井 大喜 特任講師

Q1 気を付けていることは？

見やすい動画の作成を心がけています。YouTuberの方の動画を参考に、動画での話し方や資料の見せ方にも気を付けています。また、授業が一方通行となってしまうことも避けたいので、完全オンデマンドの授業については、感想や質問への回答を、なるべくその次の授業内で行うようにしています。

Q2 苦労していることは？

動画をどうやったらコンパクトにできるのか、にいつも悩まされます。授業時間自体は90分ですが、動画になると密度が濃いので、1時間以内にするように努めています。あとはやっぱり、準備が対面授業よりも倍以上の時間がかかってしまうことですね。



Q3 オンライン授業の利点は？

PCやタブレット、スマホなどのICTを活用することを前提とした授業であることですね。受講者がすぐにICTを使用できる状況なので、様々なICTに関するソリューションを結び付ける授業を展開しやすくなりました。そういった授業を受講することで、学生たちもそれらの活用を覚えていってほしいし、模擬授業などで是非実践して欲しいです。

Q4 学生に意識してほしいことは？

今、GIGAスクール構想などで児童生徒一人一台端末が整備されて、インターネットを活用する教育に切り替わっていくところです。本学の学生には、オンライン授業を通してICT活用技術を身につけて、教育現場に出たときに先陣を切ってほしいです。



学生に聞いてみました

小中教育専攻理科教育コース4回生 中西晃世さん
小中教育専攻国語教育コース3回生 西河陽子さん
理数情報専攻自然科学コース2回生 入口知紗妃さん

3人に
聞いてみました

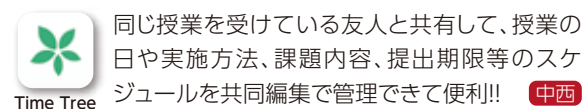
Q1 印象に残った授業は？

- 中西 リアルタイムで教わりながら、途中で投票ツールを使ったクイズで、理解度を確認しながら進める授業。
- 西河 座学はオンデマンド型で、グループワークはリアルタイム型で、というようにそれぞれの良い点を活用してくれる授業。
- 入口 課題や感想にフィードバックがある授業。コミュニケーションが少ないからこそ、コメントがあると嬉しい。

Q2 苦労したことは？

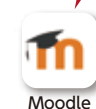
- 中西 最初から最後まで、提示される資料を読んで課題を出すだけの授業はモチベーションが続かない。
- 西河 課題の量が多い授業。1つ1つの課題はできても、他の授業でも課題が出ているので、合わせるとうっかりつらい。
- 入口 1回生の頃、遠隔で他の学生と一緒に資料を作る際に、集約するのが大変だった。今となっては、共同編集機能を使えば楽にできたのに、と思います。

Q3 便利なアプリは？



同じ授業を受けている友人と共有して、授業の日や実施方法、課題内容、提出期限等のスケジュールを共同編集で管理できて便利!! 中西

あまり学生に知られていない!?



Moodleで設定されている課題の期限などの通知が届きます。あと、アプリなのでログイン省略して、カレンダーやコースの確認できます。入口

Q4 便利なツールは？

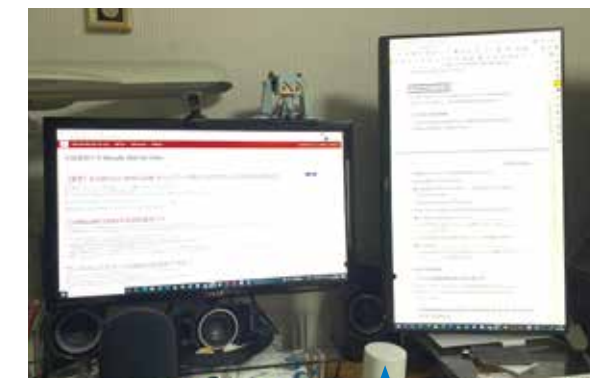


ヘッドセット 西河

- 長時間使用時に耳への負担が少ない
- マイクが口元にあるため音声も明瞭
- 画面を操作せずにマイクをOFFにできる
- 周囲の音を遮断できるので授業に集中できる

タブレット・スマホ 西河 入口

- PCでZoomに接続しながら、資料を読みやすい
- PC不調時の接続用予備デバイスにできる
- 勉強に関係のないアプリ等をインストールしないことで、授業に集中できるように工夫



デュアルモニター 中西

- 左側のモニターでZoomに接続しながら、ネット検索やメモ等の他の作業ができる
- レジュメは基本的に縦型資料のため、横型モニターより断然見やすい

Q5 1日のスケジュールは？ 入口さんのとある1日を紹介

8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	24:00
起床	朝食・授業準備	オンデマンド型 (2限目)	昼食	リアルタイム型 (3限目)	ICT教育支援 ルームの業務	休憩	授業の課題	夕食	休憩 授業の課題 勉強	入浴・休憩	授業の課題	入浴・休憩	授業の課題	入浴・休憩	授業の課題	就寝
午後からZoomを使うのでお化粧も		オンデマンド型は授業内容の学習と課題に取り組んでいます				オンライン授業期間中は自宅で相談対応 (Zoom・LINE)										

授業探訪



大教生はどんな授業を受けているのか？
講義室をのぞいてみました。

Explore the Class

多文化フィールドワーク

グローバル教育部門 **高山 新** 教授

「それでは前回に引き続き、班に分かれて『龍田古道・亀の瀬』(*)の活用方法を考えていきましょう」と、グローバル教育部門の高山新教授はZoom上で話し始めます。

この「多文化フィールドワーク」では、まず統計書等の地域に関する資料の読み方や活用方法について学びながら、柏原キャンパスが位置する大阪府柏原市について理解を深めていきます。そしてそこで得た知識をベースにしながら、地域の抱える課題の解決策をみんなで議論して考え、提言策定を通じて、まちづくりに携わることを経験します。2018年から始まったこの授業で、学生から提言された政策のいくつかは、実際に柏原市で取り入れられる計画もある、とのこと。

今年度の授業では、2020年に日本遺産に指定された「龍田古道・亀の瀬」をより多くの人に知ってもらい、訪れてもらうためにはどうすればいいか、その活用をテーマに取り組みます。授業ではまずこの場所の理解を深めるために、国土交通省近畿地方整備局大和川河川事務所建設専門官の方から大和川や亀の瀬の地すべりについて、そして柏原市歴史資料館館長から「龍田古道・亀の瀬」の歴史的背景についてお話をいただきました。

しかし、ただアイデアを出して、と言っても簡単に出来るわけではありません。高山先生は「様々な情報を組み合わせ、結び付けていく」「『昔』を『古(いにしえ)』といったように、言い方を変えてみる」「資料等から知識を得て、議論のための材料や要素を増やす」「ときには題材を忘れて雑談する」などのアイデアを出すためのコツを紹介します。

その後、学生たちはZoomのブレイクアウトルームで班に分かれて、議論を重ねていきます。ある班では、ターゲット層に視点を置いて、「外国人向けには桜や紅葉をアピールするのはどうか」「花のアーチを作ってライトアップすれば、若者向けのインスタ映えスポットになるよ」と議論を展開します。

また別の班では、既存の要素を上手く活用できないか、という視点で「急な斜面はボルダリングに」「登った後はフリーフォールで降下」「それぞれをストーリーで繋げて、脱出ゲームのようにするのはどうか」「トンネルをカプセルホテルにするのはどうか」と大盛り上がりです。

そのほかにも、「ハングライダー」や「マウンテンバイク」などの地形を活かしたスポーツの導入を検討する班、交通アクセス面にも注目する班、訪れる人が増えた際の環境問題などの課題点について話し合う班など、多種多様な視点で議論が深められています。中には、歴史的に見て地すべりがあったエリアとそうでないエリアでアクティビティを変えるなど、リスクを考慮した検討を進める班もあります。

講義には柏原市役所の企画調整課の職員の方も毎回参加しています。職員の方もブレイクアウトルームで各班を回り、質問を受けたり、その場でアドバイスや意見交換をしたりして学生と交流していただきます。この点もこの授業の特徴です。



高山教授



柏原市の職員

高山先生は、この授業は大きく4つのパートで構成されているのだと言います。「1つ目は、市の統計書や住民アンケートなどを見て、調べて、自分なりに地域を知ること。2つ目は、『地域』という世界で生きていくうえで、頼りになる役所のことを知ること。3つ目は、色んな人の色んな意見を聞いて、自分が知らない世界を知ること。4つ目は、地域の課題に対して、限られた資源や決められたルールの中でその対応を考えることで、まちづくりに携わるという感覚を知ること。そして、それらを通して学生には、まちづくりは『住民が主人公』なんだということを実感し、自分が住む地域のまちづくりに関心を持つような住民になってほしい」

学生たちは引き続き、「龍田古道・亀の瀬」のことを調べ、他者の意見を繋ぎ合わせながら活用方法を話し合い、最後の授業での政策提言に向かって、まちづくりに挑戦していきます。

(*)「龍田古道・亀の瀬」：「亀の瀬」は、奈良と大阪の国境に位置し、奈良盆地の水を一手に集める渓谷地帯。そこは、4万年前から地すべりが繰り返されてきた難所でありながら、古代より都の西の玄関口として交通・経済・治水を支えてきた心臓部。「龍田古道」は、「亀の瀬」を含めた大和川に沿った山越えの道で、都の発展とともに整備されてきた交通網。2020年に日本遺産に認定。(Adless 大阪府柏原市安堂町・奈良県生駒郡三郷町)

【授業DATA】

対象学年：学部2年生
主な対象学生：教育協働学科 グローバル教育専攻
開講期：2021年度前期 水曜2限

生徒指導と教育相談の実践的課題

高度教職開発部門 **家近 早苗** 教授・**餅木 哲郎** 特任教授

講義室の中央にはホワイトボードと教卓が置かれ、前方の電子黒板にはZoomで参加している院生が映し出されています。高度教職開発部門の家近早苗教授と餅木哲郎特任教授は教卓の前の立ち、家近教授はカメラに向かって「今日は、学級集団の問題と学級崩壊について、事例を踏まえながら進めていきます」と話し始めます。

この「生徒指導と教育相談の実践的課題」は、研究者教員の家近教授と、実務家教員の餅木特任教授の2名の教員が「ティームティーチング」により授業を展開しています。それぞれ違う視点から授業を進める中で、教員同士で議論を行いながら解説することもある、とのこと。

餅木特任教授は、『学級崩壊』の定義を説明したのち、「ここ数年で、周りで学級崩壊が起きた、という人は手を挙げてください」と、院生たちに呼びかけます。手を挙げた院生に、家近教授は「じゃあ、差し支えない範囲でお話できる人はいませんか」と続けます。その呼びかけに応じ、現職教員院生と、小学校での学習指導員を経験した学部卒院生が、それぞれ身近に起きた学級崩壊の事例を紹介しました。

次に餅木特任教授は、10分類の学級崩壊のパターンと、さらに学級崩壊の構造について、教師側の問題・子どもの側の問題・学級担任歴の問題という、3つの側面から引き起こされる『システム論』を紹介します。続いて、家近教授は『システム論』は、次々と悪いことが発生して、悪循環が起きてしまうという考え方です。学級崩壊を立て直すには、どこかで悪循環が起きていないかを見つける視点や、一つひとつの悪循環を断ち切ることが重要です」と解説します。

その後、餅木特任教授から「隣のクラスが学級崩壊の傾向があり、授業が成立しない。同じ学年の教師として、あなたならどうしますか」と問題提議を行います。院生たちは早速、Zoomのブレイクアウトルームで3〜4人程度のグループに分かれて話し始めます。『あなたならどうするか』と問いつけることで、現職教員院生と学部卒院生、どちらも積極的に話し合えるようにしています」と家近教授は言います。

先生方はブレイクアウトルームを順番に回って話を聞きます。ある院生が「隣のクラスの子どもから話を聞いて、子ども理解とともに、何に原因があるのかを考えます。というのは、最終的には担任の先生に主導権を戻さないといけないので、子どもと担任の先生が思っていることの妥協点を見つける必要がある。その仲介役のような役割が必要かと思う」と発表しました。他の院生たちも、現場で経験したことや、今までの学びをもとに『自分ならどうするか』を制限時間いっぱいまで話しました。グループワークを終え、家近教授は「当事者意識を持つこと」「抽象的な議論ではなく、具体的な行動を話すこと」「一人ひとりが何をできるかを考えること」などの対応のポイントをまとめます。餅木特任教授は、「子どもへの効果的な関わりを文書化し、校内に共有したこと」「学校づくりのグランドデザインを策定したこと」など、小学校の校長や教育委員会での経験



をもとに、多様な立場での実践を語ります。

この授業のねらいについて、生徒指導の基本的な事項を理論的に学び、自らの指導に対して「そういうことだったのか」と理解することで、実践力を付けてもらうこと。また、わかりやすい事例を多く紹介することで、実際に困ったときに「授業で学んだな、こういうことだったんだな」と活かしてもらえるようにすることだと、先生方は言います。「生徒指導は『校則を守らせる』『問題行動を解決する』等のイメージが先行しています。でも、本来の生徒指導が『自己実現』や『人格形成』等の、非常にポジティブなものをめざしているという本質に立ち返り、生徒指導に臨む態度や技術を身に付けてほしい」と餅木特任教授は話します。

院生たちは、今後も生徒指導の理論を学び、様々な事例において、『自分ならどうするか』を考え、院生同士で交流することを通じて、実践力を磨いていきます。

【授業DATA】

対象学年：大学院1年生
主な対象学生：連合教職実践研究科(連合教職大学院) スクールリーダーシップコース 援助ニーズ教育実践コース
開講期：2021年度前期 火曜7限



一人ひとりの想いに寄り添える先生をめざして

初等教育教員養成課程幼児教育専攻4回生 ほそぎ ひろし 細木 洋さん (私立土佐高等学校卒)

「幼児教育専攻は男子が少なくて、入学当初は、馴染めるか不安でした」と、笑いながら当時を振り返るのは、細木洋さん。「でも、幼児教育専攻では『新歓セミナー』などの専攻独自の行事が多く、すぐにみんなと打ち解けることができました。また、必修授業や柏原キャンパスで行われる五月祭を通して、他の専攻の人たちとも仲良くなれたので、すぐに不安はなくなりました」と柔らかな表情で話します。

高校1年生の9月には、幼稚園の先生をめざして、本学に進学することを決めていた細木さん。幼稚園の先生を志したきっかけは、幼少期から続けている卓球と、中学校の担任の先生にあるのだと言います。「卓球スクールで年下の子たちの面倒を見ることが好きで、休憩時間も小さな子と遊んで、それが楽しかった。あと、中学校の3年間とも同じ担任の先生だったのですが、その先生は理不尽に怒ることがなくて、生徒一人ひとりに寄り添ってくれる良い先生で、その姿に憧れていました。その2つの要素が自分の中で掛け合わせ『幼稚園の先生になりたい』という夢になりました」

細木さんは、中国で生まれ、小学校2年生のとき

に日本にきた経歴があります。その経歴を武器に、3年生から、外国にルーツのある子どもたちが多く通う幼稚園に、週に1回ボランティアに行っています。「コロナ禍になって間もなかったこともあり、1年生、2年生で行った実習とは全く違う環境で、最初は右も左もわかりませんでした。それでも、日本語が苦手だったり、全く喋ることができない子どもたちや保護者の方のために、何かしたいと思い、続けてきました。今では、保育のサポートだけでなく、保護者の方と先生との間に立って通訳することもあります」と話します。

保護者と先生との橋渡し役とも言える経験をもとに、ゼミでは、外国にルーツのある保護者の方との関わりを題材にした卒業論文に取り組みたいと考えているそう。「現場の先生方が、日本語に困難さを感じる保護者の方々が持っている不安に、どのように寄り添い支えているのか、研究したいと考えています。その研究を通して、将来現場に出たときに、自分に何ができるのかを模索したいと思っています」

どんな先生になりたいかとうと、「どんな人からも好かれたい」という意外な言葉が出てきました。

細木さんは、続けて「どんな人からも好かれるためには、色んな人から色んなことを頼られるようにならなくちゃいけない。そのためには、子どもたちや保護者の気持ち、『こんなことがしたい』という思いに真摯に向き合える、そんな先生じゃないといけないし、そうなりたと思っています」と、その言葉の真意を熱く語ります。

最後に本学の魅力を聞いてみました。「ここでは、教員を志す様々な専攻の友人ができることが魅力の1つだと思います。その友人たちと教育のことを話していると、小学校・中学校・高校の学びに繋げていくためには、幼児教育の段階でどのような関わりをする必要があるのか、という他の学校種との接続の視点を持つことができます。幼児教育専攻の魅力は、本当に学生一人ひとりの個性が際立っていて、授業や実習を通して一番近くで刺激をもらい、自分の考えに取りこんでいくことができる環境だということです」

何事にも真摯に向かい合う印象の細木さん。この先夢を叶えて、幼稚園の先生としてこれから巡り合う子どもたちや保護者の方々、一人ひとりの想いに寄り添っていく、そんな姿が思い浮かびます。



▶ 人体と呼吸のメカニズムの美しさに魅入られて

「小学校5～6年生の担任の先生が、課題発見型の授業を実践されていて、授業では、仮説、目的、方法、結果、考察を、実験を通してやり続けていた。当時の学びが、今の自分の、実験を通して行う科学的思考の一番の根幹だと思います。そして、その小学校での学びと、中学・高校でのめり込んだ陸上部での経験が、今の自分の基礎を作っています」と小川准教授は話します。

その後、中高の体育の教員をめざし、かつ自らの陸上の競技力向上を志し、筑波大学に進学します。「周りの学生は日本代表選手ばかりで、陸上の競技力については諦め、『学をつけるしかない』」と思い修士課程に進みました。運動生理学研究室に入って、高所トレーニングの研究を行う過程で、

高所での体の反応に興味を持ちました。そこから、実験と研究に明け暮れましたね」

修士課程修了後、1年間だけ高校の体育教師として教壇に立ち、博士課程へ。その後、准教授として私立大学に勤めたのち、本学へ赴任します。

現在の研究を伺うと、「運動生理学」、特に「環境生理学」「呼吸生理学」と呼ばれる分野の研究に取り組んでいるのだと言います。「低酸素状態、高所での運動時の生理的応答の研究ということで、高所トレーニングや、登山中の人体に起こる得る危険なこと、特に呼吸調節に関する研究を続けています。また、陸上競技に関する生理的応答や、トレーニングに関する呼吸の研究も進めています」

最初に人体と呼吸のメカニズムに魅力を感じたときのことを伺うと、「動脈血中の酸素の量に対して、血中のヘモグロビンが、酸素をどれだけ掴んでいるかを示した図である『ヘモグロビン酸素解離曲線』のS字曲線を見たときです」と即答します。「血中であれば、酸素が少し減った程度では、ヘモグロビンは、なかなか酸素を離さない。しかし、大気中よりも酸素が少ない筋肉組織の中では、僅かでも酸素が少なくなると、ヘモグロビンはすぐ酸素を離す。よって、筋肉組織内では、ヘモグロビンは血中にいるときよりも早く酸素を供給する(離す)、という特性がその曲線から見えてきます。なおかつ、運動中では、酸素をより離しやすくなるように調節されていくんです。この曲線を見て、メカニズムを理解したときに『人の身体は美しい』と感じました」と目を輝かせながら、熱く語ります。

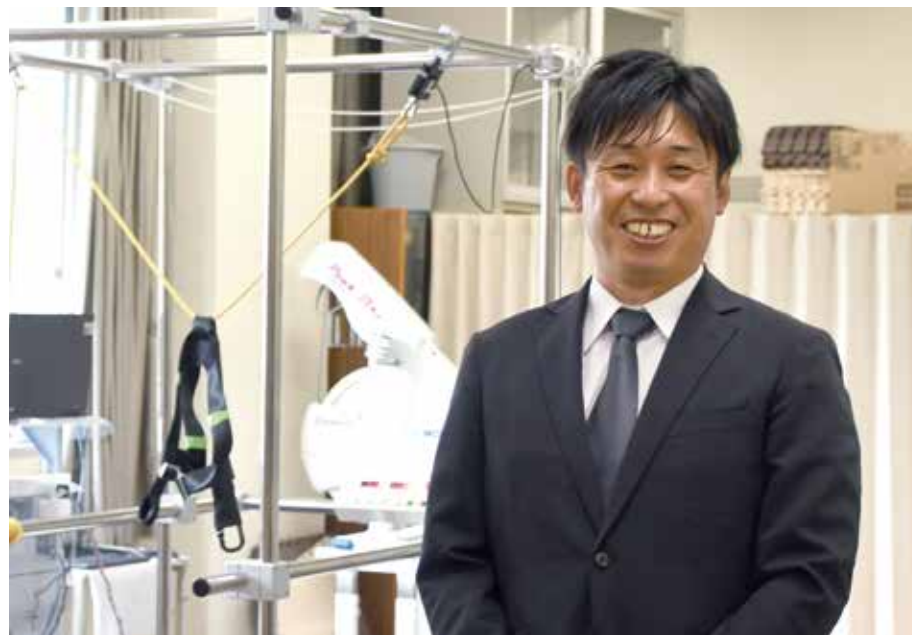
「人の身体の反応自体は、仕組みで成り立っていて、呼吸の制御もそうなんです。『何で運動すると呼吸が荒くなるのか』を考えたとき、普通、人は『苦しいから』『酸素を摂りたいから』と考える。でも、生理的には運動している、という情報や、血液中の成分が変わったという情報が、呼吸中枢に伝わり、呼吸を高めるという、運動に適した酸素を摂るために、理に合った仕組みになっているだけです。『苦しいから』『酸素を摂りたい』のような人の表面上の思考だけが原因で、呼吸が荒くなっているわけではないんです。そういう考えを持ったままだと、間違ったトレーニングや対応をしてしまいます。人の身体の反応のメカニズムを追う。それが本当に面白いんです」

今後もひたすら研究を続けていきたいと言う小川准教授には、研究でも陸上でも「まあ、いっか」という口癖があるようです。「自分のやるべきことや、十分な努力をしたのに、思うような結果が出なかったとき。それは間違えた努力をしただけ。実験でも同じ。原因を考えて改善することは重要だけど、心情的に考えても意味がないので、研究でも陸上でも『まあ、いっか』が口癖。原因究明とへこむのは違って、全く別問題、切り離して考えて、次に進んでいます」。そう語る小川准教授の身体には、探究への熱意と陸上への愛が、絶え間なく循環しています。

表現活動教育系
(保健体育部門)

小川 剛司
准教授

OGAWA TAKESHI



BAGの中身

夢や希望でいっぱいの大教大生のカバンの中を特別に見せてもらいました。

汗をかいても
目立たない色を選んでます。
汗っかきなので(笑)

クロス(ラクロスのラケット)
大学に入ってラクロスを始めから3本目のクロスです。プレー中に折れることもあります。

就活ノート・参考書
ラクロスの先輩方から受け継いだ、想いのこもった参考書です。

弁当箱
できるだけ節約したいので、昼食は毎日持参しています。



iPad
練習中に撮影してもらった動画等を確認しています。

シェイカー・プロテイン
ラクロスでは接触プレーも多いので、当たり負けしないフィジカルをめざしています。



- ① iPad ② シェイカー・プロテイン ③ 財布
- ④ リングTシャツ ⑤ カバン ⑥ PC ⑦ 参考書
- ⑧ 就活ノート ⑨ ラクロスボール ⑩ コインケース
- ⑪ 制汗シート ⑫ バイクの鍵 ⑬ イヤホン
- ⑭ iPhone ⑮ 化粧水 ⑯ 弁当箱 ⑰ クロス



YouTube
OKU Channel
撮影風景の動画が見られます。

「剛健質実」が
モットー
たにぐち たいき
谷口 大樹さん
教育協働学科
健康安全科学専攻
4年生

意見を出しやすい環境をめざして

「よろしく願います!」と、爽やかな笑顔で挨拶するのは、男子ラクロス部主将の谷口大樹さん。

リュックの中身と持ち物を見せてもらうと、「一番目立つのはラクロスで使う「クロス」という道具。その他にプロテインシェイカー、練習着など部活に関連する物が多いのですが、就活で使用するノートや参考書も入っています。

卒業論文の準備も始まっているようで、今取り組もうとしている分野は「心理的安全性」と呼ばれるもので、意見を出したことで罰せられない、対人関係が崩れない「安全性」を、雰囲気や暗黙の了解で作り出すことで、意見を出しやすい環境にしようもの、だと言います。「この分野を研究することで、『メンバーの意見を引き出す』ために、男子ラクロス部の主将として取り組んできたことの答え合わせや振り返りができればいいな、と考えています」。

色々なことをしてみたいとの理由から民間企業への就職を決めた谷口さん。「中学・高校・大学の部活動全てで部長職を担った経験をもとに、社会に出ても色々なことに挑戦し、先頭に立ってチームを引っ張っていきたい。大学生活と同様、どんな場所でもリーダーシップを発揮する谷口さんの姿が目に見えます」。



大阪教育大学

附属学校園ウォッチ

Affiliated School | Osaka Kyoiku University



「学校安全の日」附属池田小学校行事「祈りと誓いの集い」を実施

平成13年6月8日、大阪教育大学附属池田小学校に刃物を持った男が侵入し、8人の児童の命が奪われ、13人の児童と2人の教員が負傷しました。事件から20年を迎えた6月8日(火)、同校で追悼式典「祈りと誓いの集い」があり、児童、教職員ら約650人が参加しました。午前10時12分、犠牲になった8人の名が刻まれた「祈りと誓いの塔」の鐘が児童代表の手で鳴らされ、参加者全員が黙とうを捧げて冥福を祈りました。

式典に先立ち、全学年で「安全科」の授業が行われました。6年生の授業では「20年前の事件から学ぶ～自分たちには何ができるか考える～」をテーマに、児童たちは、事件当時の校内や制服の写真を現在のものと比較することによって、校舎の改築や制服のリニューアルに込められた意味に考えを巡らせました。そして、最高学年である自分たちに何ができるかをそれぞれ考え、発表しました。

式典では、事件当時には教諭として在籍し、2020年4月に校長に着任した眞田巧校長は、「この20年の節目がゴールではありません。学校安全の取組を進める次のステップに向かう通過点にすぎないのです」「事件で亡くなられた8人のみなさん、あなたたちが大好きだったこの附属池田小学校は、引き続き、日本中の学校とさらには世界中の学校と手をたずさえ、学校が安全で安心して学べる場所であるようにこれからも努力を続けます。この場所にいる大人は、決して事件を風化させることなく、目の前にある「祈りと誓いの塔」が建てられたその深い思いを受け継いでいけるよう努力を続けていきます」と決意を述べました。



ゼミ室ぐぼれ話 第11話

《視覚障害教育研究室》



山本利和先生が担当する視覚障害教育ゼミは、7名のゼミ生で活動しています。ゼミ生の研究テーマも、視覚障害に関連するものから、インクルーシブ教育や応用行動分析に関連するものまで様々です。私は他の大学の卒業後に、大阪教育大学の特別支援教育特別専攻科に入学しましたが、山本先生のことは以前からとてもよく知っていました。というのも、小学生の頃に、目の見えない私に歩行指導や点字の指導をしてくださったのが山本先生でした。まさか先生のもとで研究をするとは思いませんでしたし、先生も予想していなかったでしょうね。また、先生は私を呼ぶときに、「堀川さん」「堀川君」「ひろ君」などと、どう呼べばいいのかわかっているようです(笑)

他の皆にゼミのことを聞いたら、「立場関係なく、みんなが話しやすい雰囲気」のゼミ「意見交流がしやすく、温かい雰囲気」のゼミ「アットホームな雰囲気」で、自身の行いたい研究を行いやすいゼミ「専攻科生、学部生関係なく話しやすく、互いの研究内容からも学べるゼミ」「1人で進めるのではなく、グループ活動を主としているので、学べる機会が多く有るゼミ」だと言っています。

(堀川周一さん 特別支援教育特別専攻科1年生)

コロナが
収まったら
したいこと



今回の表紙に登場いただきました男子ラクロス部の学生3人に、「コロナが収まったらしたいこと」を聞いてみました。

⑥ 教育協働学科 健康安全科学専攻 4年生 谷口 大樹さん

大勢の観客や応援を会場に呼びこんでのラクロスの試合。歓声と熱気あふれる会場で得点したい。

⑧ 教育協働学科 理数情報専攻 数理情報コース 3年生 林 亮介さん

男子ラクロス部の同回生と旅行に行きたい。合宿などのイベントでどこに行くか、同回生で話し合いもしていたが、コロナでなくなってしまったので。

⑨ 養護教諭養成課程 4年生 山口 祈さん

ずっと行きたかった好きなアーティストのライブに行きたい。



01 iPadで描いた絵が音楽に 本学教員が新感覚アプリをリリース



表現活動教育系の江藤亮准教授が、iPad向けアプリ『グラトーン』を企画・デザインし、2021年5月8日(土)にリリースしました。

グラトーンのネーミングの由来は"Graphic (図形の)"と"tone (音色)"で、その名の通り、絵を描くように曲を作って演奏できる「図形楽譜」アプリです。図形楽譜は、アプリ画面の「ツールパレット」に用意された9種類のツールを使って描くことができ、「演奏ボタン」をタップすれば、それぞれのツールに割り当てられた楽器の音で演奏が始まります。

アプリの魅力の一つである、笑い声や話し声、玄関のチャイムなど、身のまわりのさまざまな音を録音して演奏できる自由度の高さや、「黙々とiPadと向き合って表現活動をするアプリにはしたくない。さまざまな色の落ち葉を拾い集めて画用紙に貼り合わせて直感的に絵を描くように、身近にあるさまざまな音を拾い集めて(録音して)、自分だけの楽器に変えて音楽を生み出してほしい」という江藤准教授の思いからデザインされています。

アプリのインストール(無料)はコチラ▶

※iPad (iPadOS10.0以降が必要)

※現在発売している問題点も含めて、アプリ改善・

サービス向上のためのアップデートを順次実施予定です



02 オンライン新入寮生歓迎会を学生宿舎の寮生らが開催

本学柏原キャンパスの学生宿舎の寮生らによるオンライン新入生歓迎会を、4月11日(日)に開催しました。この会は、コロナ禍で中止になった学内食堂での歓迎会の代わりに、新入生には友達作りや話を聞きたい先輩を見つける手立てにしてもらい、在校生には後輩とのコミュニケーションや部活・サークルの紹介などに活用してもらおうと、元女子寮長が企画したものです。

当日は、女子寮長である学校教育教員養成課程小中教育専攻学校教育コース3回生の堀川華輪さんと、男子寮長である同課程中等教育専攻理科教育コース3回生の林徹郎さんの2人が主催し、新入生・在校生あわせて21人が参加しました。新入生は一人ひとり自己紹介し、チーム戦で共通点ゲームをしたあと、チームごとにZoomのブレイクアウトセッションを用いて少人数で交流しました。

参加寮生は、「温かい雰囲気を感じることができ、楽しかったです。オンラインならではの楽しみ方もできて充実した時間が過ごせました。次はもっと他の人とも交流してみたいです!」と語りました。



修学支援事業基金へのご協力について

新型コロナウイルス感染症拡大の影響による経済的に困窮する学生の存在は深刻です。本学では早期に、学生が経済的な理由により修学を断念することなく、安心して学業に専念できるよう、大阪教育大学修学支援事業基金を活用し、「緊急学生支援金」給付を実施しましたが、今後も新たな対象学生の増加や、継続支援とともに新たな支援の必要も予想されます。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

一口 1000円 クレジットカード等によるインターネットでのお手続きとなります

●基金の詳細についてはこちらから▶

大学ホームページ 基金ページ

https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/somu/oku_foundation/forstudent2.html



●ご協力をお願いできる場合は

左記のページのこちらのボタンから▶

(寄附)基金寄附支払いシステム-F-REGI

※所得税の「税額控除」の対象です。

◎クレジットカード等によるお手続き

インターネット申込

お知らせ 大阪教育大学広報誌天遊(TenYou)は大学ホームページからご覧いただく形に変わりました

大阪教育大学広報誌「天遊」(TenYou)は紙媒体での冊子送付を終了し、大学ホームページから動画なども含めパソコンやスマホでいつでもご覧いただける形に変わりました。

各号の発行毎のお知らせメールをご希望の方はアドレス登録をお願いします。

発行は、大学ホームページ新着情報や公式フェイスブックなどでもお知らせします(年3回発行)。

大阪教育大学 天遊

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/kikaku/relation/tenyu.html>

メールアドレス登録はこちら▶



公式SNS アカウント名: OsakaKyoikuUniv



Twitter
<https://twitter.com/osakakyoikuuniv>



Facebook
<https://www.facebook.com/OsakaKyoikuUniv>



Instagram
<https://www.instagram.com/osakakyoikuuniv/>

各種イベント、ニュース等を配信しています。是非フォローしてください!

「天遊」とは

「天遊」とは荘子の言葉で、人間の心の中に自然に備わっている余裕を表しています。キャンパス統合移転の記念碑に銘文として刻まれており、揮毫は故水嶋昌(山耀)本学名誉教授によるものです。「天遊」の読みからとった「TenYou」は、「十人十色、その中のあなた」というメッセージを込めています。

